

011. 必要と必然

中沢新一 著「アースダイバー」をご存知でしょうか？この本は縄文時代の東京の地形をひもとくと、現在の土地の意味がわかってくる。たとえば、なぜ皇居はここなのか、新宿、渋谷はなぜ盛り場になっているのか、東京タワーはなぜここに建てられたのか、偶然ではなくそこには必然的に今の東京が存在していることが、事細かに書かれていて、東京に興味がある方にはとてもおすすすめな、一冊です。

この本は2005年に発行されましたが、この本はわたしに、考え方の一つの方向性を示してくれました。それは今もがあふれすぎているその物が本当に人間に必要なのか？おそらく必然的にいらない物は淘汰されていくことを真剣に考えなければいけない時代だということ。3月11日はある意味そのきっかけを作ってくれました。安全と言われた、原子力、きれいになると言われた化粧品、そして最近では薬まで信用なりません。食品についても添加物はおちるんだめですが、大豆や牛乳も？と言われています。いま若い人たちにスーパーフードが大人気なのもうなずけます。

そして、私たちが関係している、繊維はどうでしょうか？高機能化学繊維も必要な人もいるかもしれませんが、人間に本当に必要な繊維をつきつめ、研究していくことが、これからの繊維のあり方ではないでしょうか？綿・麻・絹の可能性をもっと突き詰めてほしいと思いますが、どうでしょうか？最近のコマーシャルや映画を見てると、最新のものとレトロなものが入り混じっています。最新の物を使っていた、コマーシャルでは古い家具や音楽、ハリウッド映画でも最新の車と60年代の車のカーチェイスのシーンや近未来の光景にも60年代の車が使われています。これは一口にレトロブームというには違う気がします。おそらく昔のものをリスペクトするとともに、必要と必然を考えて、今に活かせるというメッセージではないでしょうか？このメッセージはこれからのデザイン、商品開発やトレンドのヒントになることを願います。

文責：豊方 康人

012. 「時代を楽しみなさい…」

去る、10月12、13日に通夜／告別式が行われた。「雨国のふみ叔母さん」が103歳で亡くなり大往生であった。生前、叔母は皆さんに「人生は1度だけ、楽しんで生きなさい。」が口癖であった。「日本酒と持時を愛した人でもあった。私の名前、文雄も叔母さんに頂いたもの…」生前好んだ時でお通夜の席で歌われた「酒を飲む」である。「君に勧め黄金の盃 家々と酌がしておくれ 花発げば雨風しげく 人生は唯別離のみ」明治・大正・昭和・平成を生きた。

私は、予備校時代と卒業して1年程、お世話になった。恩返しも出来ないままのお別れであった。四十九日の法要が、11月24日行われ叔母さんの旅も終わり仏様に…。叔母さんと関わった時間が、自身の仕事の上で大きな影響があったと思います。テキスタイル業界に進んで今年でもう35年目に、長いこと第一線でやってこられたのも叔母さんをはじめ関係者のお陰だと思っております。

もうすぐ40年になるテキスタイル人生、振り返ってみるのも面白いのではないのでしょうか。多摩美の教授でもあった、大西健次郎先生のデザイン室に入ったのがテキスタイルデザインを始めるきっかけとなり、デザイン室閉鎖にともない2年足らずでフリーの世界へ。

今思っと大きな駆けであり冒険でもあった。

当時は、無我夢中であり考えている余裕すら なかったような気がする。

学生時代は、1973年第一次オイルショックを経験、そして1991年バブル崩壊。

2000年のミレニアムは、何か起こるのではないかと真剣に考えた。

2008年リーマンショックを経験し2011年東北大震災と。言えることは、「大きな時代の変化は、ライフスタイルを替えデザインに大きな影響を与える。」と言ふことを身をもって痛感した。

もう一つ思うことは、1985年頃から始まったSPAである。

仕事先である大手家具専門店で実際の業務に携わって思ったことは、

閑居の衰退がこれから加速的進行するだろうと。

実際、「閑居の衰退」は、マーケットと生産現場に影響し、我々のデザイン活動にも大きな 影響を与えた。

時代は社会全体が変革の時代へと入っている。

不安な気持ちになる。

そんな時、「雨国の叔母さん」の言葉を何時も思い出す。

「人生は1度だけ、楽しんで生きなさい」と…

気持ちの大きな人である。

文責：今野 文雄

013. 秩父銘仙に磨かれて

原稿依頼の電話を受けたのが、12月10日。19～20歳代にかけていっしょにテキスタイルを学んだ友人2人で、秩父鉄道 のぶしゅうひのにー泊し、秩父銘仙館を尋ねる、車中のごでした。これも産地との縁を思い書かせていただきました。秩父は以前、日本テキスタイルデザイン協会・交流部会で産地見学会を催しました。私事ですが、国際見本市に18年出展出来たのも、仕事が続けられるのも、モノづくりへの思いの原点がある産地のお陰が大きい。秩父銘仙は綿などに属する大衆向け絹織物の一種で、古くから埼玉県秩父一帯で生産されていた。銘仙の産地としては群馬県伊勢崎いせさきめいせん・栃木県足利あしかがめいせん・東京都八王子・村山・埼玉県飯能・所沢・群馬県館林・桐生等がある。

明治～大正～昭和と織機の変化と共に糸づかひも変化し、緋染・絞染・擦染緋・ぼくし擦染。縮加工等と柄表現もいろいろと工夫されてきて種類も多い。とくに経糸に型紙を使って模様をつけて織り上げるぼくし擦染はプリントのパターンと緋のシトロな雰囲気になが磨かれるのでしょうか。日本の繊維産地をとりまく現状はきびしいが、デザインや商品の見せ方、流通や販売の仕方を変えることで売り上げを増せる場合が多いと思う。質の高いデザインとの出合いが本当にいいモノを生み出すのだと思う。今、ニッポン全国のスグレモノ、おいしいモノを提案する売り場が楽しい。

文責：中山陽子

014. 化学繊維の豆知識/化学繊維の歴史

「婦人が欲しがる軽くてきらきら光る織物を、夫たちは同じ重さの金を支払って買った。それは水のようにさらさらと流れ落ち女の身体を包んだ。」(オーストリアの文化史家ヘルマン・シュライバー「絹の文化史」の冒頭部分)

このように絹は、その繊維の持つ顕著な光沢感と軽やかさや、優雅な触感、独特な絹罫りの音により、人々の憧れの素材であった。絹は、非常に魅力的な繊維であり、ヨーロッパでは産せず、シルクロードを渡って遙か遠い中国より渡来するため羨望の的となり熱望され、同じ重さの金を取られたほど高価で貴重で、人気の高い、繊維の王様とも呼べる繊維であった。

このような美しさを持つ繊維を、科学者は人工的に作りだすことを夢に見、様々な試みが行われていた。

初めての化学繊維の誕生は絹に似せた化学繊維(レーヨンの種類)の誕生であった。

化学繊維はコスト的に天然繊維よりも安く作ることが可能な場合が多いため、天然繊維に代替するべく、天然繊維を目指して開発改良が行われるようになることが多かった。

次に起きた大きな事実としては、初めての合成繊維であるナイロン繊維の発表があり、このナイロンは天然繊維とは比べ物にならないほどの強度を持った繊維であった。ナイロンは強さとともに光沢も持ち合わせていたため、絹の独壇場であった靴下、ストッキング市場を奪い取り、さらには今までは強度に優れるという特徴により残っていた麻繊維を駆逐してしまうことになったのである。

その後、アクリル、ポリエステル繊維が順次 開発、商品化される。アクリルはかさ高く保温性のあるウールに似た繊維として発展、ポリエステルは吸湿性、外観向上などが行われるようになるとオールマイティな性能で他者よりも特に発展を遂げるようになっていく。

過去の化学繊維は、既存の天然繊維に対しての代替繊維という印象の強いものが多かった。是に対して、これらのあとに開発されたポリウレタン繊維は多少違った印象を受けるものである。ポリウレタン繊維は繊維自体に収縮性をもたせた素材であり、この繊維を使用することで、今までの縮みや織り粗織、或いは天然ニムなどを使った場合と比べて、高度な性能を持つ作り得ることが可能となった特筆すべき特徴を持った繊維が開発されたのです。またこの後、新しい質感を持った新合繊と総称される繊維が流行った時代もありました。

化学繊維の誕生から約130年、現在はスーパー繊維などとも呼ばれる高機能、高性能繊維も開発されています。最初は天然繊維を目指して作られてきた化学繊維ですが、今日では天然繊維の性能や質感を超える繊維も続々開発されてきています。現在のスーパー繊維は産業資材としての使用が主ですが、美的価値を持ったスーパー繊維を纏う時代も今後来るのでしょうか。楽しみにしましょう。

文責：古閑崇尚

015. 「むじなも」と「武州藍」

埼玉県羽生の水篋館に国の天然記念物、ムジナモが展示されていました。

モウセンゴケ科のムジナモ属でたった一種類しかない珍しい淡水の食虫植物です。

埼玉県羽生の三田ヶ谷の宝蔵寺沼が、全国唯一のムジナモ自生地として国の天然記念物に指定されています。

7月から9月にかけて日差しの強い日にまれに米粒くらいの白い花を咲かせます。

花はほんの1時間ほどで閉じてしまい水中で種を作ります。めったに見られないので、幻の花と言われています。

藍染は、安房国(徳島県)の吉野川中、下流域が一般的に知られていますが、江戸後期、武州羽生の青橋(木綿糸を藍で染めた織物)は農家の副業として盛んに行われていました。